

平成25年度 しが生物多様性大賞 受賞活動

1. 活動の名称

「湖南 企業いきもの応援団」(任意団体)

2. 活動の概要

目的・目標	中小企業間ネットワークを活かし、地域河川の生態系モニタリング、および社員環境教育の両立をはかる。会員による狼川における魚類、水生昆虫、甲殻類、水質等の定期的かつ継続的調査によって、その目的に資する。
活動エリア	一級河川 狼川 (草津市)
活動の参加者	浅野運輸倉庫(株)・(株)SMD・(株)きんでん滋賀支店・草津電機(株)・郷インテックス(株)・滋賀銀行南笠支店・滋賀中央信用金庫南草津支店・中山倉庫(株)・日本ガラストロニクス(株)・日本観光開発(株)・(株)藤田・草津市市民環境部職員・琵琶湖博物館学芸員
活動時期	2010年(平成22年)～年4回 春季(4月)、夏季(7月)、秋季(10月)、翌年冬季(1月)

3. 取組内容

- ◆滋賀経済同友会では2009年4月「琵琶湖いきものイニシアチブ～生物多様性の恵み豊かな社会を未来に引き継ぐために～」を発表し、滋賀の経済人として、「企業は持続可能な経済活動」と「地域の自然再生への貢献」を両輪とした活動の展開を宣言し、経営者自らが活動の先頭に立つことを求めている。
- ◆「琵琶湖いきものイニシアチブ～生物多様性の恵み豊かな社会を未来に引き継ぐために～」に賛同した湖南地域に立地する企業11社が「湖南 企業いきもの応援団」を組織し、地元の「狼川」を教育環境のフィールドとすると同時に、その健全性を企業の特性を活かして監視する役割を果たしていくこととした。
- ◆活動にあたって、①「参画のしやすさ」②「環境教育としての質の高さ」③「意味ある正確なデータの継続的な取得」の3点を考慮し、企業ネットワークを通じた役割分担による一社あたりの負担(コスト・マンパワー)の低減により、継続的な調査が可能で、且つ、情報の共有や異業種・他企業との交流がはかれるメリットを活かし、湖南地域の「企業同士の協働」を構築して、活動を展開している。
- ◆活動に際しては、狼川上流～下流にかけて6つの定点観測ポイントを設け、年4回・マニュアルに沿った調査活動を行っている。
草津市の「草津市の自然と人との共生を進める施策の推進計画」と連携すると共に、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸員も「市民との協働の推進事業」の一環として調査に毎回立ち会い、魚類、水棲昆虫、甲殻類の同定や、水質データの検証などを行っている。
 - 調査頻度 毎年4回 (1月、4月、7月、10月)
 - 行政・研究機関との連携 草津市役所市民環境部 滋賀県立琵琶湖博物館
- ◆これまで既に16回の調査を行い、取得されたデータを有効に活かすべく、初回から2年分の調査データを「湖南 企業いきもの応援団活動報告vol. 1」として、会員企業、草津市、琵琶湖博物館はじめ関係機関、研究者などに報告している。



4. 今後の課題・将来像等

- ◇事務局は参加企業毎に業務の繁忙期が異なり、調査活動のスケジュール調整に苦慮している。加えて、悪天候での延期なども発生しており、学術的な価値を損なわない範囲での日程調整が課題の一つ。
- ◇各企業ごとに調査会参加者の交代を前提に、行政、研究者と協力しさらに調査精度の維持向上に努めること。
- ◇調査対象を現在の「魚類」「甲殻類」「トンボ(ヤゴ)」「水生昆虫」から、「藻類」「貝類」等にも拡大していきたい。
- ◇収集したデータは、その都度、参加企業に配信している。2年に一回、そのデータをまとめて活動報告として、研究者、行政、会員企業等に報告しているが、さらに一元的に一般公開できるようにしたい。

- ◇当会の活動モデルが他の琵琶湖周辺地域において河川調査の展開の要請があれば協力したい。
- ◇調査活動に、行政とも協力し次代を担う地域の子供たちの参加を実現させたい。
- ◇経済変動に影響を受けない持続可能な組織を構築すること。

5. 連絡先等

団 長：日本ガラスロニクス（株）桂 賢
〒520-0825 滋賀県大津市膳所池ノ内町740番地 TEL：077-511-2002
事務局：郷インテックス（株）近藤 行和 E-mail：ugit@goh.co.jp
〒525-0072 滋賀県草津市笠山五丁目3番19号 TEL：077-562-4505